

第17回 なにわ歴史シンポジウム



2017
12/23 大阪歴史博物館

日本遺産・竹内街道と
難波大道をめぐって

上町台地未来遺産フェスタ

エリーニ ニュースレター vol.13

13号 2018(平成30年)6月 発行



大阪市中央区備後町3-6-2KFセンタービル Tel.06-6264-4455

第25回ワン・ワールド・フェスティバル



北区民センター

2018
2/3・4

国際協力三大フェスタ(東京のグローバルフェスタ、名古屋のワールド・コラボ・フェスタ、そして大阪のワン・ワールド・フェスティバル)にユネスコ協会のユースが各地で実行委員会を作って企画から出展までつくりあげています。奈良・神戸・エリーニ・ユネスコ協会に所属する関西のユースが集結。ブースでは世界寺子屋運動を中心に活動を紹介。プログラム出展では、カンボジア・スタディツアーに参加された高校生による問題提起からSDGsを踏まえて、参加した一人ひとりが自分にできることは何かを考えることができるワークショップで、世代を超えて多くの方々が各地から参加されていて、多くの学びを得ることができました。

ワン・ワールド・フェスティバル for Youth

「ユネスコ協会ESDパスポート体験発表会」報告

2017
12/23

大阪YMCA



帝塚山泉ヶ丘高校のユネスコ部のみなさんの司会でユネスコスクール(小・中・高)、各校の活動が報告されたあとグループにわかれ、ボランティアしたことを学びあい、繋げていく発表会。30ボラン達成者の表彰もありました。

「天津道・丹比道と難波大道」

大阪文化財研究所学芸員 積山 洋氏

古代道路の通説は天津道Ⅱ長尾街道、丹比道Ⅱ竹ノ内街道、磯齒津道Ⅱ現長居公園通り、渋河Ⅱ現国道二五号線(八尾・柏原市)、龍田路Ⅱ現国道二五号線(柏原市・大和郡山部市) 古代道路関連資料として仁徳一四年の「日本書紀」、雄略一四年の「日本書紀」、「隋書」巻八一、推古二一年(六一三年)の「日本書紀」、天武元年(六七二年)、天武八年(六七九年)の「日本書紀」、天平八年勝宝(六七九年)の「続日本紀」、宝亀二年(七七一年)の「続日本紀」がある。

「難波・河内と周辺の古道」

阪南大学国際観光学部教授 来村 多加史氏

難波大道の建設時期は三期の可能性がある。第一案は推古朝六一三年、第二案は孝徳朝六五二年、第三案が天武朝六八三年。今のところこの三案に絞られているようだ。また小野妹子を大使とする遣隋使が六〇七年に渡航して隋の帝に朝貢した。小野妹子の帰国に伴い、輩世清が来日し推古天皇に面会した。面会に当たってどのルートで大和の国に入ったかだが、大和側説もあるが、川の難所も多く外資に国家の威信を示すため立派な感動の建設が求められた。

「仁徳天皇が通った難波大道と竹内街道」

上海師範大学特約研究員・元堺市文化財課 森村健一氏

森村氏は難波大道の建設時期は5世紀代、日本書紀の文献の六一三年は再整備されたという見解である。難波大道の目的は四一三年倭五王遣使、六一四年の遣隋使、六三五年の遣唐使や百濟・新羅の使節が大和の宮都行するための「外交用国家道」である。森村氏は古市古墳群と百舌鳥倭五王寿陵群と国家道である丹比道難波大道・港湾・高津宮を含む国家構成要因政治的集合体と考えておられる。

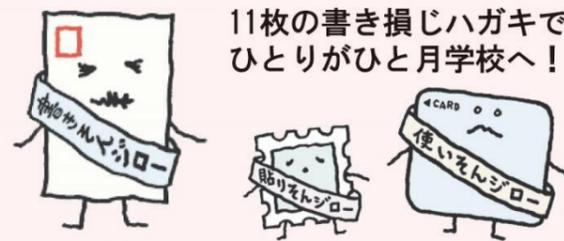
■パネルディスカッション■

コーディネーター：来村多加史氏 パネラー：森村健一氏、積山洋氏

森村先生は難波大道の発掘現場のことが忘れられないようで感動されたことがよく伝わってきた。語尾のはっきりし明快にお話しされたので、とても分かりやすかった。一方積山先生はやはり学者肌で、ロジックが鮮明で別な意味で意図がよく伝わる話し方をされていた。特に古代資料の分析が多く日本書紀の話がよく出ていた。

私たちにもできる支援があります！

あなたの書き損じはがきを
ユネスコ世界寺子屋運動へ！



さまざまな理由で教育の機会にめぐまれない子どもや大人のために「学びの場＝寺子屋」を広げていきましょう！

エリーニ・ユネスコ★エコプロジェクト
ペットボトルキャップ回収



ペットボトルキャップ回収によって貧困に苦しむ世界の子どもたちの支援活動に取り組んでいる団体に寄付しています。支援にご協力をお願いします。

※ペットボトルキャップ800個でワクチン1人分です。

■エリーニ・ユネスコ協会とは・・・

1994年12月・・・創立
1995年 2月・・・日本ユネスコ協会連盟から承認

エリーニ・ユネスコ協会は、大阪の上町台地が日本で最も古くから開けた町であることに着目し、歴史シンポジウムや歴史ウォークを開催し、上町台地を世界に発信することを目指しています。

また「ESDの研究会とユネスコスクールの普及」に取り組み、子どもたちの学びが豊かになるよう活動しています。

エリーニとはギリシャ語で「平和」を意味します。

U's(青年部)は学校や地域社会とコーディネートしながら、子どもたちが地域の良さに気付き、誇りをもつことのできるよう「地域から発信する」活動を展開しています。

年会費

- 個人会員・・・6,000円
- 青年会員・・・3,000円
- 家族会員・・・6,000円(個人会員のご家族のみ)
- 維持会員(法人会員)・・・12,000円(一口)

※例会や各種イベントは「会員による自由意志参加」を原則としており、拘束はありません。

まずは知ることから
(申込の流れ)

STEP 1
興味を持ったら
事務局までお電話を

STEP 2
例会や行事に1日会員として
参加をしてみる

STEP 3
入会を申し込む
(事務局宛に申込書を送付)

■エリーニ・ユネスコ協会U'sの活動

2017 4月～2018 3月

金剛組との伝統技法プロジェクト

4月 4/29 五重塔雛形組み立てワークショップ 棟上げ体験と工作 寺西家阿倍野町家

5月 4/30 ユネスコ寺子屋教室 そもそもユネスコ世界遺産とは

5月 5/7 清明丘寺子屋教室 棟上げと継手体験ワークショップ

6月 6/11 上町台地・歴史ウォーク



7月 7/30 伝統技法体験 ワークショップ

8月 8/4 清明丘寺子屋教室 伝統野菜収穫交流会 清明丘会館

9月 9/30～10/1:グローバル・フェスタJAPAN2017(東京)
10/7～8 :ユネスコ青年全国大会(札幌)
10/14.15 :ワールド・コラボ・フェスタ2017(名古屋)

10月 10/29 ともだちのまちへWS コリアタウンまつり

11月 11/19 世界の記憶 朝鮮通信使って何?

12月 12/23 近畿ブロック・パワーアップセミナー

12月 12/23 ワン・ワールド・フェスティバルfor Youth

12月 12/23 第17回 歴史シンポジウム

12月 12/26 清明丘寺子屋教室 英語あそび

1月 2/3・4 ワン・ワールド・フェスティバル

2月 2/16～18 南北コリアと日本のともだち展東京展

2月 3/10 3.11 シネマ・フューチャーセッション

日本ユネスコ協会連盟制作「雄勝法印神楽の復興」映画上映と
同じ映画を見て語り合うシネマフューチャーセッション

3月 地形と歴史から防災を考える：防災MAP発行

3/23～25 南北コリアと日本のともだち展大阪展

東アジアの子どもたちの心をつなぐ
南北コリアと日本のともだち展

「21世紀を平和の世紀にしたい」という願いから2001年にスタートした絵画展「南北コリアと日本のともだち展」。大阪では2011年にはじまり、今回は7回目。毎年共通のテーマで大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国、中華人民共和国、そして日本に住む子どもたちの絵をひとつの会場に展示します。今年のテーマは「わたしの楽しい時間」！子どもたちが絵画を通して互いの生活や文化を知り、絵にメッセージをのせてやりとりすることで、直接には出会うことが難しい子どもたちの人と人とのつながりを生み出しています。

東京展・2/16～18 千代田3331

大阪展
3/22～25

大阪国際交流センター
あなたも子ども審査員



こどもワーク ショップ



ギャラリートーク



2017
12/2

日本ユネスコ協会連盟主催 近畿ユネスコ協議会共催
2017年近畿ブロック・パワーアップセミナー

大阪国際交流センター

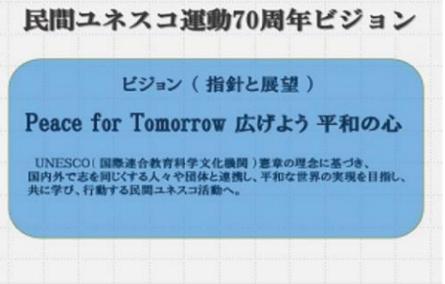
- ①基調講演 テーマ「ユネスコの理念と現代社会の課題」——日本ユネスコ協会連盟理事長 鈴木佑司
- ②クイズ「ユネスコ運動の70年の歴史と今」
- ③ステップアップ・ワークショップ「地域でユネスコ活動を輝かせるために」



■今回のセミナーに対して鈴木理事長から「さすがに長い知的伝統と民間ユネスコ運動の歴史のある関西地域は、他地域とは全く異なる、いわば日本のユネスコの学びの豊かさの原点になるような地域だと感じました。今後の活動の展開・発展に大いに期待します」とのコメントが寄せられた。(米田伸次)。

■鈴木理事長は、現在の世界には、内向きのナショナリズム蔓延り、グローリズムとナショナリズムの相克の時代の中にある。ユネスコは七十数年の歴史の中で三次の危機を迎えたが、現在はもっとも厳しい危機を迎えている。こうした状況に対して日本ユネスコ協会連盟では「広げよう平和の心」をコンセプトに「ビジョン・ミッション2017～2026」を提起した。そのポイントは次世代のリーダーを育てること、地域に根差した文化や伝統を若い世代に伝えることである。

■ワークショップでは、グループに分かれて「次世代を対象とした平和の心を広げる活動とは」をテーマに活発な討議を展開、グループごとに発表された。平和の心を広げる活動としてもっとも多く提案された活動は、それぞれ各地のユネスコ協会が学校と連携、子どもたちと共に地域の文化、伝統を学ぶ取り組みの企画であった。



金剛組との伝統技法推進プロジェクト × ユネスコ寺子屋教室

2017
4/29.30

五重塔雛形組み立てワークショップ 体験と工作 レクチャー 寺西家阿倍野町家

4月29日、国の有形文化財の寺西家阿倍野町屋にて、「ユネスコ世界遺産や日本の文化財について学び、伝統技法の継承と担い手づくり」を目標に578年創業・世界最古の企業「金剛組」のご協力で、五重塔雛形で、構造の説明を木内棟梁にいただきました。

くぎを使わない家の棟上げや継手の模型を体験。なべ敷きや胡床(こしょう)の工作などから、参加した子どもから大人まで、世代を問わず楽しんでもらえました。



4月30日、「そもそもユネスコ世界遺産とは？」と題し、米田伸次先生を講師に招き、ユネスコ寺子屋教室を開催しました。

「ユネスコ世界遺産」は観光目的のものではなく、ユネスコ憲章にあるめざす「平和」のために、お互いの国の文化を理解し合えるよう世界レベルで保存していかねばならないものを「世界遺産」と認定されること。また世界遺産条約締結の経緯、国内外の世界遺産。認定までのエピソードや今後の可能性などについて学びました。

